**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　　東日本大震災から１２年**

二〇二三年三月十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、東日本大震災と福島原発の事故から１２年がたちました。犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災者の皆さんにお見舞いを申し上げます。今もなお３万１千人近くの方が故郷を離れ、避難生活を続けています。この埼玉県内にも約２５００人の避難者の方がいらっしゃいます。日本共産党は被災者の暮らしと生業の再建、被災地の復興のために、引き続き力を尽くす決意です。また、国に対しては必要な予算を確保することをはじめ、国が最後まで責任を果たすことを強く求めます。

　ところでみなさん。福島原発事故の最大の教訓はなんでしょうか。地震や津波が多い日本で原子力発電を続ければ、常に国民の命と安全、そして日本の国土を危険にさらし続ける、このことではないでしょうか。だからこそ、原発ノーの声が大きく沸き起こり、今につづいています。それなのに岸田自公政権は今年２月、原発を最大限活用するという新しい方針を決定しました。古い原子炉をさらに使い続け、新しい炉の「建て替え」を進めるというものです。原発事故の教訓や反省に背を向ける原発最大限活用への方針転換は、被災者の苦しみを無視するものであり、断じて許されません。

　政府は原発推進の理由として、気候危機打開・脱炭素のためとか、電力の安定供給のためだと言っています。しかしながら原子力発電は建設にばく大なエネルギーと物資を必要とし、発電量の微調整ができないため、脱炭素にも安定供給にも役立ちません。原発をやめ、再生可能エネルギーや省エネを進めることこそ必要です。原子力発電を日本からなくし、安全で持続可能な日本の実現へ、日本共産党は引き続き全力で頑張ります。

　さてみなさん、岸田政権は大幅な軍事力強化を打ち出し、それを具体化する新年度予算を国会に出しています。その中身は、日本から他国を攻撃するための兵器の大量買い込みや、自衛隊基地が軍事攻撃を受けても基地の機能が失われないようにする基地強化などです。戦争をしない、そのための戦力を持たないと明記した憲法に反し、日本を軍事的に危険な国に変え、かえって戦争を呼び込んでしまう、大変危険なものです。みなさん、こんな危ない岸田政権の大軍拡を許さない声を、ご一緒にあげましょう。

　特に許せないのは、軍事増強の財源として、医療や年金の財源となる積立金や被災地復興特別税など、いろいろなお金を流用しようとしていることです。被災地復興や被災者支援のためのお金、国民生活を支えるためのお金を、外国攻撃のための軍備にまわすなど、岸田政権に国民生活を支え守る気持ちがないことをはっきり示しているのではないでしょうか。日本共産党は危険な軍事力強化をやめ、被災地復興にしっかり取り組む政治を実現するため、全力で頑張ります。みなさんのご支援、ご協力をどうぞお願いいたします。

　政治や社会の問題、気候危機、ジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）